

## 【1・25 運営委員会別紙1】 11.30「核ゴミいらない青森フォーラム」について

### 主な会議等の経過（日誌）

2023年

10・8 運営委員会

- ・「核燃料サイクル40年の大誤算の検証事業」(案)
- ・「核のゴミいらない!全国フォーラム」仮称 開催決定

12・2 共同代表事務局会議 「フォーラム」2024年11月30日 青森市民ホール開催

2024年

1・27 企画委員会の設置

- ・主催・共催・講演等内容について検討
- ・第一部(40年間の闘いを振り返る)
- ・第二部(これからの闘いについて)で内容を検討することに

2・16 共同代表事務局会議・企画委員会

- ・「11.30フォーラム」開催要項(案)協議
- ・第一部、第二部、講演者、予算について

3・2 運営委員会並び企画委員会

3・10 11.30フォーラムチラシ作成(お知らせ版)3・11、4・9反核燃の日で配布

3・20 11.30フォーラムの主催・共催の正式要請と打合せに東京へ  
原子力資料情報室・原水禁・

4・18 共同代表事務局会議

4・27 「県民の会」総会・記念講演 ・核燃料サイクル破綻40年間の検証事業を確認  
事務局会議

5・16 ・講演者・パネルディスカッションのパネラー・コーディネータ選出についてなど、内容について相談

5・22 運営委員会・企画委員会

- ・メインの講演 当初田中真紀子さん、そして落合恵子さんをお願いしたが難しく、「おしどりマコ・ケンさん」さんに決定。

7・27 運営委員会・企画委員会

8・9 企画委員会、共同代表事務局会議

8・18 運営委員会・企画委員会

- ・「核ゴミいらない青森フォーラム」 全国を「青森フォーラム」へ変更  
他県からのパネラーを手配できず県内のみ、歴史、実態、核燃サイクルのことを伝え、知ってもらうことを重視し、県内、全国への呼びかけを確認。
- ・具体的な内容について(パネラー、コーディネータ、司会、ブースなど)

9・18 企画委員会 共同代表事務局会議

- ・フォーラムの内容・流れについて協議

- 10・6 運営委員会・企画委員会
  - ・これまでの進行状況と当日のタイムスケジュール
  - ・チラシ・ポスター完成
- 11・4 運営委員会・企画委員会
  - ・スケジュール、当日の流れ、スタッフ配置
  - ・当日配布のプログラム（資料）冊子の作成、内容
  - ・教宣活動について
  - ・財政について
- 11・23 企画委員会
  - ・当日のタイムスケジュール・スタッフ配置
  - ・ブースの展示内容の確認
- 11・29 フォーム会場の設定・当日配布の資料袋詰め・ブースの展示
- 11・30 フォーラム開催 スタッフ9時集合 片付け等終了17時30分  
終了後 交流会 ワラッセで開催

上記のとおり、2023年10月に「核燃料サイクル破綻、40年間の検証事業」を決定してから運営委員会の開催、企画委員会の設置し、何度にもわたる共同代表事務局会議等を開催し、開催要項、講師、パネラーの選出等で具体的な内容を協議しました。

その間にむつ中間貯蔵施設への使用済核燃料搬入が具体化し、県の説明会、青森市での反対集会・むつ市での集会と。そして搬入当日の抗議集会を開催。衆議院選挙と・・・「フォーラム」に集中して取り組むことも大変でしたが、「11.30核ゴミいらない青森フォーラム」が開催できました。

#### 取り組み内容や反省点など

参加者 250名で発表

（午前、午後だけ参加の方もいて会場には150人ぐらいの人が席についていた）

作成した資料は全部で238部 配布

- ・県内の参加者がほとんどでしたが、東京、岩手県、北海道からの参加者もありました。この種の集会に初めて参加したという方もいました。
- ・一日中（長時間）の集会は参加者も大変、そのことが午前だけ、午後だけの参加ということになった。やはり、長時間の集会等には工夫が必要。

#### 広報教宣活動

・チラシ 24,500枚 ポスター 300枚

各団体へ配布それぞれが創意工夫で配布、集会等での配布など

原子力資料情報室通信・原告団ニュース・赤旗新聞折り込み（無料）などなど

県民の会会員個人への郵送

今回パネラーの方々への教宣依頼・

商店・集会所等にチラシ・ポスター掲示依頼（数件）

- ・チラシについては全部配布しましたが、複数の団体に加入している方が多く、重複があった。
- ・ポスターはやはり印刷が多すぎた、展示して頂けるところが限られていた。  
チラシ、ポスターの作成が遅かった。もっと全体での声かけ等が必要だった。

#### プログラム（当日の配布資料）について

- ・プログラム（資料集）52頁の冊子  
開催にあたってのあいさつから、パネルディスカッションその1、その2にのパネラーの発言内容・問題提起の資料などなど掲載 500冊作成  
フォーラム終了後も問い合わせが7件あり配布（郵送）現在残100部  
資料として活用いただけた。
- ・公開質問状に対する県民の会の見解と県の回答書（原本）
- ・《参考資料》核燃料サイクル年表（未定稿）
- ・原子力資料情報室発行「止めよう六ヶ所再処理工場の環境放射能汚染」パンフ  
その他チラシ数件

#### ブースの展示・販売について

- ・今迄にない試みで、良かった。
- ・場所が狭かった。特に書籍の場所。平野さんの本をもっと広げたかった。
- ・テーブルやパネルの準備がしてあったので、助かった。
- ・一閑張り（和紙を張り重ねて、柿渋や漆で仕上げたカゴなど伝統工芸品）に興味を持ってもらえ、説明も聞いてもらえて嬉しかった。
- ・売った本が、結構古いモノが多くて、申し訳ない気もした。
- ・もう少しブースを見て歩いたり、交流できる時間も欲しかった。  
生産者や新しく青森に根付こうとしている人たち、青森の伝統工芸を繋いでいこうとされている人たちの生の声を聞いて欲しいし、初めて接する人の声も聴きたかった。新たな出会い、繋がり  
の場になる可能性を感じた。

#### 当日の運営（スタッフ）会場・受付・ブース 他

- ・前日に会場の設定・ブースの展示・そして当日配布の資料作り（袋詰め）ができとても当日の負担が少なくなり、良かった。荷物の搬入や作業に21名参加。
- ・当日は受付・ブースの展示販売・会場係と総勢46名が参加。

#### その他

- ・おしどりマコ・ケンさんの講演はとても好評でした。もっと聞きたかったなどの声もありました。
- ・数日前におしどりマコ・ケンさんと打合せをし、その2のコーディネータを引きうけていただき、終了後にはマコさんからとても勉強になった、楽しかったとの言葉を頂きました。
- ・当日の「マコケンさんのYouTube配信（講演のみ）」は 視聴者150人

- ・パネラーの方々にも原稿の依頼、そうして当日の提案とご苦労をかけました。これからのつながりを大切にしていきます。
- ・翌日東奥日報・デーリー東北新聞に掲載される。
- ・原子力資料情報室の願いをし、ユーチューブ配信、県民の会のホームページからも視聴できます。12月19日より現在視聴回数154回
- ・開演前とお昼時間、ホワイエでの「40年間の運動」映像も上映しました。

### 11.30 フォーラム収支報告(12月23日現在)

科 目	当 初 予 算 (11/22)	支出金額	摘 要
会 議 費	59,022	39,022	企画会議会場費等
広 報 教 宣 費	86,810	85,310	チラシ、ポスター印刷代
会 場 費	248,257	220,340	市民ホール・会場費当日前日準備・音響等
会 場 設 備 費	30,000	4,400	会場横断幕・縦幕・
講師謝礼交通費	250,000	248,400	おしどりマコ・ケン交通費、謝礼、宿泊費2泊 38,400円・交流会会費負担1万円
パネラー交通費	30,000	30,000	県民の会員外のパネラーへの交通費 3名
資 料 印 刷 代	130,000	116,610	当日のプログラム資料集 101,610円 公開 質問状の印刷 15,000円
通信費(送料)	46,499	46,230	チラシポスター郵送・案内等郵便料
事務費(消耗品)	20,000	24,674	資料印刷用紙代・会場整備とブースの展示の ため消耗品等
弁 当 代	36,000	36,000	スタッフ・パネラー講演者の弁当代
予 備 費	100,000	108,546	コーディネータ交通費・音響映像謝礼・カンパ 振込手数料負担分・スタッフバンダナ他
交 通 費		64,000	企画委員会・事務局会議交通費一部負担
合 計	1,036,588	1,023,532	

カンパの総額は 1,133,371円 支出 1,023,532円 残高 109,839円

通常の会計と一緒にしてありますので、

最終的には決算時期3月31日に事業費(11.30フォーラムの経費として整理します)

#### 財政について

- ・当初から100万円ぐらい経費を見込んでのスタートでしたが、なかなかカンパ等を集めることができず、11月中旬に何とかカンパがあつまり、最終的には上記の収支になりました。
- ・チラシ、ポスター・当日の資料等の作成費は予算を見ていましたが、本事業に妥当だったか、その他の支払いについてもこれからのために点検が必要と思います。
- ・財政確保のために、広告掲載等も計画しましたが、取り組みが不十分でしたし。
- ・郵貯の口座はあったものの専用の振込口座がないと不便でカンパにつながらなかった。速いうちに財政確保のために議論が必要だった。